

2021年4月8日

## 第 33 回全国経済同友会セミナー アピール文

新型コロナウイルス感染症により、政治・経済の先行きが一段と不確実性を増している中、我々は新しい時代に適応すべく果敢にパラダイムシフトを起こしていかなばならない。

そのような状況下で開催された第 33 回全国経済同友会セミナーは、過去に例のないリアルとオンラインを併用したハイブリッド形式となった。

東日本大震災から 10 年を経た今、新型コロナウイルス感染症という新たな危機はもとより、時代の変化を乗り越えるべく、目指すべき社会や経営のあり方について、参加者一人ひとりが考え、自ら行動する契機にすることを目的に、「新しい日本の再設計～コロナショックを新日本創造の契機に～」を総合テーマとして議論を行った。

セミナー閉会に当たり、全国 44 経済同友会ならびに会員は、次のことを宣言する。

- (1) 新ビジネスの創出と不断の業務改革、いわゆる「知の探索・知の深化～両利きの経営」を支える基盤は今やデータである。その認識のもとで、データの流通・利用を積極的に図る。同時に、人間の英知をかけてあるべき未来像を描き、そこからバックキャストिंगして DX を駆使し、社会課題の解決、持続的かつ健全な発展、国際競争力の強化を実現する。
- (2) 従来から指摘されている自然災害リスクや安全保障上のリスクに加え、今回の感染症は、あらためて社会全体の脆弱性を浮き彫りにした。強靱かつ自律的な地域経済の構築を目指し、サプライチェーンの多元化、オフィス・生産拠点の分散化による一極集中の是正、働き方や雇用慣行の変革を行い、多核連携型の国づくりの一翼を担う。

新型コロナウイルス感染症は、貧困や格差の拡大等を露わにしたが、我々は、パラダイムシフトを起こしていく過程で弱者が生じないよう、SDGs 経営を実践し、誰一人取り残されない、国民一人ひとりが生活の豊かさを実感できる持続的で多様性のある成長を実現しなくてはならない。

一国の枠を超え、国際社会で叡智を結集し協調・連帯していく重要性が強く認識される中、経済界のそうした行動実践が、我が国が引き続き国際社会からの信用と尊敬を集め、不可欠な存在となることに繋がると確信する。

以上